



米商進路だより

令和5年5月15日発行
山形県立米沢商業高等学校
進路指導部（第5号）

《 きっとうまくいく！ 》

令和5年5月12日（金）に米沢工業高校との交流会が行われました。令和7年の統合に向けて、米沢工業高校1学年の先生方から校舎案内をしていただき、商業棟（仮称）、体育館、情報実習室等を見学させていただき、最後は大視聴覚室で講演会を拝聴いたしました。校舎内は改修前であり、工事予定の部分がありましたが、統合に向けて一人一人の意識が高揚したのは間違いのないと思っています。

講演会では、米沢の魅力について米沢観光コンベンション協会副会長の吉澤彰浩氏から講話をいただきました。最初に、「アイデンティティー」について「自分（私）」というものがある存在していることへの認識の話がありました。時間や環境が変わっても【自分】という存在が変わる事はないので、【自分】というアイデンティティーが確立されているので、【自分】を理解しようという話から始まりました。

つまり、「自分自身を表現できるもの」「自分が自分に対して持っている考え方」がアイデンティティーの捉え方という意味になります。吉澤氏はUターンをされ現在に至りますが、「米沢は歴史や風土に培われたアイデンティティーがある」ということを話しておられました。将来県外に行っても米沢（故郷⇒ふるさと）を愛する気持ちを忘れないでほしいということをお伝えしたかったのだと思います。

本校と米沢工業高校が統合することを念頭に最後は「きっとうまくいく」という言葉でまとめていただきました。なお、6月1日（木）より米沢産業高校（仮称）の校名募集が始まります。皆さんにとっては、在学中に新たな学校名が決定するという千載一遇の好機といっても過言ではありません。仲間と共に、自分たちの学校名について考えてみてください。



校舎見学の様子



講演会の様子（大視聴覚室 200名が入る大教室）

《 卒業担任団からのメッセージ 》

令和5年3月に卒業生を送り出した先生方から在校生にメッセージをいただいておりますのでご紹介いたします。担任として、日々生徒と向き合い進路達成のために応援団になっていただき、それぞれの「なりたい自分」になるために努力を重ね本校を巣立っていきました。特に、3年生は限られた時間を有効に使う必要があります。アドバイスを自分のこととして捉え、邁進してみてはいかがでしょうか。

《 田中 秀樹 先生 》

皆さんにアドバイスしたいことが二つあります。一つ目は、合格体験発表会で多くの卒業生が言っていたように、日々の授業にしっかり取り組むことです。テスト一週間前だけ勉強するのではなく、授業で分からない所があったら、その都度授業担当者や友達に聞いて、早い段階で手を打ちましょう。校内選考で、平均評定が足りず、希望する進路先を変更せざるを得ないことがないように、目標とする評定値を早めに設定して下さい。また、進学であっても、就職であっても資格取得が優位に働きます。資格取得の状況で希望する大学に出願できなかったり、希望する企業の受験ができなくなることがありますので、日々の授業と併せて資格取得にも励みましょう。

二つ目はスケジュール管理です。進路の手引きにある進路カレンダーによく目を通し、何をいつまでにしなくてはならないかをしっかり把握しましょう。また、進路の手引きには、これまでの歴史が詰まった有益な情報が満載です。履歴書の志望動機や願書の志望理由書を書く時だけでなく、面接にむけての準備等有効に活用して下さい。

《 梅本 真帆 先生 》

在校生の皆さんに今のうちからやってもらいたいことは「自分を知ること」です。自分はどういうことが得意なのか、どういうことが苦手なのか、どういうことが好きなのか、どういうことが嫌いなのか、これを知るとどのような職種につくと自分を活かすことができるのか、どのようなことを学びたいのかみえてきます。進学でも就職でも必ず面接がありますが、その面接では自分自身について聞かれます。自己PRや学校生活で大変だったこと、部活動で頑張ったことなど皆さんは答えることができますか？今、答えることができると自信を持って言える人はなかなかいないのではないのでしょうか。自分自身のことなのに自分が一番わからない。「自分自身を知る」ということは簡単なようにみえて、とても難しいことだと思います。自分に向き合い、時には周りの人に「私ってどういう人？」と質問をしてみてください。3年生になると企業見学に行ったり、履歴書を書いたり、志望理由書を書いたりとても忙しく、自分と向き合う余裕がありません。特に2年生は3年生になる前に自分と向き合う時間をつくってみてください。

《 石川 圭子 先生 》

何か挑戦する時、自分の思い通りにならない事、上手くいかない事ってあります。でも、それは「失敗」とは言わず「経験」といいます。高校生の時はたくさんの「経験」を積んでいく時間だと思います。思い通りにならなかった時、悔しくて傷つくかもしれません。そこから自分は、どうその問題に向き合い、乗り越えるか、そこから学ぶことの方が多いと思います。挑戦がうまくいかなかったとしてもそれを責めることは決してありません。まして、クラスメイトはその頑張りを見えています。互いに励まし、みんなでいろんなことに堂々と挑戦して欲しいです。その積み重ねがあるから受験の面接でも、「私は高校生活で〇〇を精一杯取り組んできました。思い通りにならなかった時、諦めず〇〇してきました。そこから私は〇〇を学び、成長できました。」と、堂々と話ができます。〇〇に入る言葉は自分で経験しないと出てきません。検定試験、部活、学校行事、課題研究、総合実践、毎日の授業、テスト、ボランティア…〇〇に入ることは身近にたくさんあります。3年間はあっという間。米商生ですもの。有言実行できる力と可能性は無限にあります。